

元はマンハッタン計画によりプルトニウムの製造工場の建設地に指定され、アメリカ陸軍工兵司令部がデュポン社と契約して工場建設、生産に従事したのです。このため付近住民であった 1500 世帯が立ち退きを命ぜられたが、大半は先住民であるインディアンの部族でした。

1943 年に Hanford Engineer Work (HEW) の実際の建設が開始、最盛期には約 5 万人が働いており、1945 年 8 月、第二次世界大戦が終了するまでに、3 基の原子炉(105-B、105-D、105-F)、3 基のプルトニウム処理施設(221-T、221-B、221-U)各 250m が完成している。

ここで造られた原料から最初のプルトニウム型原子爆弾がロスアラモス研究所(当時、サイト Y と呼ばれていた)で製造され、ニュー・メキシコ州・アラモゴ・ド爆撃試験場での世界最初の核実験が行われた。(トリニティ実験)

この実験を経て改良された原爆が長崎に投下された。(広島へ投下された原爆は別の研究所で製造された)

第二次大戦後は、米ソの対立が激しくなり、核開発競争が始まり、さらにイギリス、フランス、中国が続いて核開発競争に加わり、公式には 2037 回の核実験が行われ、世界中に放射性物質が撒き散らされた。

冷戦の激化とともにソ連の核兵器に対抗するため、この基地は拡充され、1963 年には、9 基の原子炉がコロンビア河畔に配置され、5 基の核処理施設が中央高原部に、全部で 900 棟のビルが建設された巨大な各施設で全米一であると共に、おそらく世界一の核施設であると思われる。

だが、米ソ対立は軍事衛星の宇宙戦争に推移し、このため各施設は徐々に縮小され、やがて停止になったが、製造過程で生じた膨大な核廃棄物がこのハンフォ・ド施設に一元的に保管された。

1988 年 6 月 25 日、ハンフォ・ドは 4 ッの区域に分割され、核廃棄物処理が始まったが、核処理は遅々として進まず、1989 年 5 月 15 日にワシントン環境庁、アメリカ合衆国環境保護庁、エネルギー・庁の三者が合意し、ハンフォ・ドの環境浄化のための法的枠組みを作り浄化を進めているが、現在でも多大な人員と予算を投入している。

また付近の農民が癌、白血病、奇形児の出産等、放射性物質関連を疑わせる症状が出ているが政府は認めようとしなし、後始末の浄化が後何十年かかるかは見通しはない。

世界の趨勢として原子力発電に依存しようとする国が増えてきており、俗にトイレのないマンション建設と言われているように、そのうち浄化出来る方法が見付かるだろうと建設することだけを優先してきたが核処理方法は未だ試行錯誤の道半ばで先は見えない。そうしているうちに核廃棄物はどんどん増えるばかりで、世界中の大問題になることは明らかです。

ハンフォ・ドの核保管施設は世界の中でのほんの一例であって、



[六ヶ所むら再処理工場]